



辞令交付式・新人職員研修

4月1日(土)、令和5年度辞令交付式・新人職員研修を神戸市総合福祉センターで行いました。今年も8名の新人職員が、新しく法人の仲間として加わりました。大矢理事長より歓迎をこめて、ひとり一人に辞令が手渡されました。法人理念『ひとりひとりを大切に、ともに生きる』であることを胸に新しい仲間と共に今後成長し続けて参ります。

新任職員紹介

今年の3月より生活援助員として働いています。新人職員研修(4/1)を受けて、社会福祉法人ひょうご聴覚障害者事業協会の法人理念や対人援助技術について等、大切なことをたくさん学びました。研修終了後は、頭の中がパンクしそうでしたが、淡路ふくろうの郷以外の職員の方と交流することができて楽しかったです。(生活援助係 馬場朱美)

研修では、まず初めに法人の成り立ちや運営している淡路・神戸の各事業所についての説明を受けた後、淡路ふくろうの郷狭間施設長より「社会福祉とは対人援助について」、濱田業務執行理事より「身体拘束・虐待について」等の講義を受けました。

多様な考え方の人と共に同じ目標に向けて協力し合えるチーム力を高めていけるようにしたいと感想がありました。(詳細は次月号に掲載)



社会福祉法人
ひょうご聴覚障害者
福祉事業協会

<発行>
特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

〒656-0002
洲本市中川原町中川原28番地1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページリニューアルしました。ご覧ください。よろしくお願いします。

旧優生保護法下での強制不妊手術は憲法違反として、県内5人が国に損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決が3月23日(木)大阪高裁で行われました。裁判長より判決は、訴えを退けた一審(神戸地裁判決)を覆し、国に4950万円の賠償を命じ、逆転勝訴となりました。裁判所には、多くの支援者が駆け付け、大矢理事長、淡路ふくろうの郷の職員も駆け付けていました。弁護団から「逆転勝訴」の旗が示され

障がい者の声が届いた！



▲逆転勝訴を喜ぶ原告ら

優生保護裁判判決

県内5人逆転勝訴

大阪高裁に入り、法廷で傍聴するのは初めてでした。一般の傍聴希望者が多く、抽選10名迄で、たまたま、運良く私は当たりました。法廷に入り、多少緊張はしましたが、検察官がモニターに映しながら読み上げ、説明をしていました。裁判の流れがよく分かり、勉強になりました。想像していたよりも緊迫した雰囲気、裁判長が主文を言い渡した直後、原告の藤原弁護団長が傍聴席に向かって手で大きく丸を作ると、傍聴席では喜びの声が上がりました。小林實二さんの妻は既に亡くなっており、最近實二さんは体調を崩すことが増えていきます。国は一刻も早く賠償責任を認めてほしいと私は願っています。又、全ての原告に対する国の上告断念と優生保護法問題の全面解決に向けて、皆と共に訴えていきたいです。

(生活援助係 山田繁和)

祝！
200号

「ふくろう新聞」今号で200号という節目を迎えることになりました。情報環境が目まぐるしい変化を続けている中、広報委員会として発信手段などを工夫し、より一層研鑽して行きたいと思えます。今後とも皆様からのご意見をお寄せ下さい。よろしくお願ひ致します。

淡路ふくろうの郷 広報委員会

ふくろう物語 畑中たまる様

畑中たまる様は、昭和4年

10月10日洲本市中川原町生まれの93歳です。9人兄弟の5番目です。以前ふくろうの郷に入居されていた入谷ふじゑ様のお姉さんでもあります。大家族だったこともあり、子どもの頃はよく兄弟でおかずの取り合いをすることもありました。

その頃から食べるのが好きで、特に果物が好きです。兄弟でよく高跳びやかく



れんぼ、鬼ごっこ等をして遊んでいました。また、風邪をひいても寝たらすぐに治り、薬はいらぬぐらいの健康体でした。

学校は中川原の小学校、中学校に通われ、学校から帰ると家は百姓をしていたので、勉強は二の次で家の手伝いをしていました。下校時に友達と寄り道することもあり、暑い日には帰り道の途中で川に入って遊ぶなど、こっそり道草をすることもありました。

最愛の母との別れ

19歳の頃に母親が亡くなり妹や弟が小さかったので世話をしながら家事・百姓の手伝いに精を出しとても大変でした。

弟妹の手前、元気に振舞っていました。ふとした時に母親を思い出し亡くなった寂しさから涙がこみ上げてきて影に隠れて何度も涙を流しました。



新しい家族

その後21歳の時に結婚しました。夫は大阪の方で、水道の部品等に使用するメッキの検査の仕事をしていました。たまたま仕事で淡路に来ていた時に会いました。

結婚後は夫と一緒に淡路でメッキ検査の仕事をしていました。検査は立ち仕事だったので、年々体に負担がかかりとてもきつかったです。子供は娘2人を授かり、育児に仕事に家事にと忙しかったです。夫と2人3脚で頑張っていました。

娘さんからのお話

娘様とはとても仲が良く、淡路ふくろうの郷に入居される前はよく一緒に旅行等に出かけていたそうです。

娘様より「母は優しい性格でいつでも誰に対してもニコニコと笑顔で接している姿ばかりで、怒ったところは見ることがない。」と温和人柄を教えていただきました。

ふくろうの郷での暮らし

ご自宅で生活されていましたが体調を崩され入院。退院後は淡路ふくろうの郷のショートステイを経て、令和4年9月13日に入居されました。

たまる様は塗り絵や他の入居者様とおしゃべりを楽しまれています。「この人たちのことは兄弟のように思っている」と話してください、その言葉通り仲睦まじく過ごしていただけるよう支援していきたいです。

(生活援助係 篠倉拓己)

避難訓練



3月8日(水)淡路広域消防署の方に来てもらい避難訓練を行いました。入居者にも協力して頂き、実際に居室からの火災を想定し訓練を行いました。

まず、どこに避難するのか避難するのどの位時間がかかるのか、職員全体の動きは正確かを確認しました。ユニットの職員が避難誘導の指示を出さないといけないのですが、消火活動や居室内の確認等に時間を要し効率的に指示を出せませんでした。

普段からどのように行動すればよいかを学ぶ大切さを知りました。実際に火災が起きた時に、訓練でできたことが出来るのか、入居者に対して正確に伝える事が出来るのかを考えさせられました。今回、避難訓練で学んだ事を職員と情報を共有し、火災が発生した場合でも、入居者や職員が安全に避難出来るようにしたいと思います。

(生活援助係 川崎 弘統)

お花見へ

3月29日(水)晴天に恵まれ、中川原ふれあいセンターの桜が満開だったので、入居者の皆さまとお花見へ行ってきました。旧中川原中学校だった場所を訪れ懐かしむ方や、近場ですが久しぶりの外出にウキウキした気分です。これからの楽しみです。



職員研修 「安全運転講習」

3月28日(火)本田技研工業(株)の三浦さんを講師に招き「安全運転講習」を開催しました。三浦さんは全国各地を周り年間100件以上の講習会を担当されておられます。まず初めに①事故を起こさない、②巻き込まれない、③原因をつくらない、この3点を常に意識し自動車運転を行い、事故を回避することが重要であることをうかがいました。次にCG画面を見ながら、一人ずつ番号のついたリモコンを持ち、自分がドライバーとなり約2分程度の映像を見て危険と認識すればボタンを押す、危険予測トレーニングを行いました。映像に気を取られボタンを押し忘れたり、迷っていると視野が狭くなっていることに気づかされました。そして驚いたことは参加者全員がどのポイントで危険と予測してボタンを押したのかが画面に表示され、共有できることでした。その後、検証を行い、ボタンを押した理由を説明し、どのような危険が考えられるかを一緒に学習しました。正解に加え、事例で裁判での判決内容や事故の過失割合についても説明があり、みな興味深く聞き入っていました。この講習で得たことを生かし、時間と心にゆとりを持って運転していきたいと思えます。(健康看護係 佐々木加代)

ふくろう大学修了式

3月29日(水)にふくろう大学の修了式があり、入居者の皆さまに狭間施設長より修了証を授与しました。令和4年度の演劇講座をはじめ、書道、絵手紙、料理講座等に参加され、交流を深められました。新年度についても暮らしの充実を図れるよう努めてまいります。(生活援助係 浦手寛仁)



修了証を受け取り誇らしげな水田さん

4月・5月 ふくろうの暮らし

- 4/15(土) ふくろう大学書道講座
- 4/18(火) ふくろう大学開講式
絵手紙講座・自治会総会
- 4/19(水) ふくろう喫茶
- 4/28(金) ふくろう大学料理講座
回想法
- 5/ 1(月) ふくろう理髪店
- 5/ 2(火) ふくろう大学演劇講座
- 5/ 3(水) 誕生会
- 5/ 8(月) ふくろう理髪店
- 5/10(水) 手話講座
- 5/11(木) 回想法





▲春夏秋冬のイメージを工夫し、表現する受講者

3月5日(日)手話奉仕員養成集中講座が開かれ、11名が参加しました。「演劇的手法を使った手話講座」ということで、庄崎隆志氏に講師をお願いしました。2つのグループに分かれ、身体一つで様々なメッセージを伝える、また手話の魅力を全員で共感し合うことが目的のワークショップを行いました。受講生から「テキストで学ぶのとは違い、ゲームを通じて徐々に自

手話の魅力を共感しあおう!

淡路聴覚障害者センター

洲本市港 2-26
洲本市健康福祉館3階

令和4年度手話奉仕員養成講座 1年間の集大成行事終え 3会場で20人修了

分の表情が豊かになっていく感じがした。「イメージをしつかりもって、相手に伝えたいという気持ちが大切だと強く思った。」「皆で考えること、表現することが楽しかった。」また、普段指導している講師からも「今日は表情が素晴らしくて驚いた。」とそれぞれの立場からの感想が寄せられました。

受講者・3サークルと交流
手話講座の終了も近づいた2月中旬に島内の3サークル「あわじ・津名・三原」を見学させていただきました。それぞれの会場で受講者は学んだ手話を使って自己紹介やゲームなどでサークル会員と交流し、実際のサークル活動に触れ、今後の手話の学びや活動の参考にしていただきました。最初は緊張した面持ちだった参加者も時間が経つにつれ和んだ表情で交流を楽しんでいただけでした。

受講者・3サークルと交流

(酒井真由美)

例年作成している受講者による「一年間のまとめ」がありました。最初は思いの外難しかった手話も学びつづけるうちに、手話の面白さや、仲間と一緒に学べたことで乗り切れたこと、また聞こえないことの大変さが学べたなどの思いが綴られています。

一年間のまとめ



▲手話サークルあわじ会員と交流する受講生

各会場で講座閉講式

3月9日各会場で閉講式が行われ、それぞれの会場では3市の福祉担当課長から、修了証が手渡されました。その後、修了された一人ひとりが学んだ手話を使って受講の感想や今後の活動についての抱負が話されました。



▲修了証授与式(南あわじ会場)

第7回社会生活教室

「時事問題を学ぼう」

洲本高校講師の和田先生に「コロナ・統一教会・ウクライナ戦争・トルコ地震」について盛りだくさんな内容についてお話をさせていただきました。タイムリーな内容だったので、関心



▲興味深く聞き入る参加者

度も高く、3月からマスクの使用は個人判断になるが、本当にマスクなしでも大丈夫なのか、どうしてロシアはウクライナを侵略したのか、戦争をやめるための方法はあるか、とか質問が相次ぎました。歴史的なことや裏話も加えながら丁寧な説明をしていただき、みなさん興味深くうなずき、時間が足りないくらいでした。昼食を挟んで午後は意見交換会を行い、来年度は日帰り研修や健康講座で医者に来ていただき、話を聞きたいなどの要望がありました。来年度も充実した内容にしていきたいと考えております。(岡本久子)

ありがとう手話フェスタ開催大盛況！

中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎ 656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2
TEL 0799-28-0990
FAX 0799-28-0992



3月20日(月)、S BRICK (洲本市)にてAWAJIユニバーサル演劇ネットワーク(以下AUTN)協会主催「第1回ありがとう手話フェスタ」が開催されました。当日は手話関係者だけでなく、中



川原の方、また島外からも大勢来られ立ち見ができるほどの大盛況。協会代表の庄崎隆志さんの呼びかけで全国から集まった8名の演者が熱演、笑いあり・シリアスありの2時間でした。「手話はわからないし楽しめるかしら…」と言われていた方からは「表情の豊かさや指先まで全身を使った身振り。さすがだと思った。手話言語がわからなくても伝わってきました」と後日感想をいただきました。

AUTN協会として今回初の試みでしたが「ありがとう」の感謝の気持ちを常に持ちながらこのイベントを継続していきたいと思ひますし、また他にも色々なことを企画中であります。今後も皆様方の温かいご支援を何卒よろしくお願ひいたします。(濱田)

おのころ屋の取り組み

2月から新しく開設された「森の木ベース」で毎週金曜日にパンの販売をさせてもらっています。利用者の方をはじめ、近所の方も買いに来て下さっています。手話奉仕員養成講座を修了された方が「手話で話したい」と地域の方が気楽に集まれる場所として始められました。おのころ屋のパン目当てにその日に合わせて来て下さっている方もいます。一緒に販売に行っているろうの利用者さまもコミュニケーションが自然にとれて楽しく会話されています。人と人の輪が広がる場所となればと思います。



農社様よりすき焼きまんとは全粒粉クッキーの製造委託を受けています。今までもイベントの時に製造してお渡ししていましたが、3月からは毎週木曜日に洲本市下加茂のもへいじの駐車場でキッチンカーを使用して販売しています。まだまだ浸透しておらず、1回目は、完売とはなりませんでした。毎週出店することにより、固定客ができることを期待しています。

4月9日(日)、市民広場にて「わくわくフリーマーケット」が開催され菓子パン販売を行いますので、是非ご来場お待ちしております。(おのころ屋 藤本美保子)

神戸長田ふくろうの杜

兵庫県神戸市長田区神楽町5丁目3の14の1

〒653-0836
電話 078 798 7940
FAX 078 798 7941

「神戸事業所職員研修会」

3月5日(日)に神戸長田ふくろうの杜、神戸平野ふくろうの樹の職員が集い、研修会を開催しました。これまでに新型コロナウイルスの影響もあり、神戸事業所の職員同士の交流の機会も少なく、どんな職員がいるのかも分からない状態もあったため、研修という機会顔合わせを合わせることができました。

午前中は、昨年の第26回全国聴覚言語障害者福祉研究交流集会(以降、全聴福研)で発表したレポートをもとに研修を行いました。就労継続支援B型事業所、生きがいデイサービス、介護保険デイサービス、放課後等デイサービス、グループホームから報告を行いました。

利用者の支援から見えてくるさまざまな課題、悩みなど対象となる利用者の年代や特性は違っても共通となる課題も多く上げられました。特に病気に



ついでに理解をすすめるための支援は、事業所職員だけではなく、ケアマネや病院など多職種の連携が大切になるということは、どの事業所も考える必要があります。事業所だけではなくインフォーマルな資源も含めた利用者の支援チームを作っていくということがこれからの課題になります。

毎年、全聴福研では各事業所からレポートを発表しています。日々の支援をまとめることで、自分たちの仕事を振り返ることで、利用者のより良い支援へとつながります。

「地域とつむぎ」 取り組みに学ぶ

午後からは、神戸長田ふくろうの杜がある細田神楽まちづくり協議会の顧問の野村勝様から「阪神淡路大震災後の新長田駅北地区の取り組み」というテーマでお話をいただきました。

野村様は、元消防士で震災当日は当直を担当され、先頭に立って救援活動を行われました。しかし、被害は甚大で消防や自衛隊など公的な支援だけではどうしようもなかった。地域での支え合いで救われた命が多かったと話されました。

震災後すぐに、まちづくり協議会が設立され、会長として倒壊や火事で被災を受けた地域の復興に尽力されました。また、この地域は火事による被害が大きく、消火用水のためのせせらぎが作られ、現在も清掃活動を続けています。清掃活動には、当施設の職員も参加しています。

また、平成26年には女性が殺害

される事件が起き、防犯パトロールも行っていきます。

そうした経験を風化させることなく引き継いでいくために「人と防災未来センター」の語り部として活動したり、小学校で講師をしたりこれからの防災のために活動を続けておられます。

私たち福祉施設としては、まずは利用者を守るために消防訓練や防災訓練などを行うことが大切です。そして、地域のみなさまに頼ってもらえるような関係を作っていくことがこれからの課題です。そのためにも、地域のみなさまの思いを知り、地域の活動に参加していくことが大切です。

